香南市学校の規模適正化の取組に関する意見交換会

香南市教育委員会

本日の内容

01　なぜ学校の規模適正化に取り組むのか

02　児童生徒数の将来予測について

03　規模適正化に関する香南市の基本的な考え方について

04　アンケート調査結果について

05　意見交換

なぜ学校の規模適正化に取り組むのか

香南市は平成18年の合併により誕生しましたが、現在、少子高齢化や自然災害リスクの高まりといった社会環境の急激な変化に直面しています。
これからの香南市を担う子どもたちにとって、より良い教育環境を整え、その命を確実に守るために、以下の3つの視点から、学校の規模適正化と適正配置（再編）を考える必要があります。

01

学びの質と成長の機会の確保

同級生が少ないことによる、多様な考え方や　価値観に触れる機会及び互いに切磋琢磨する機会の減少

02

大規模災害から命を守る

津波浸水想定区域内にある学校の安全性を最優先に考え、安全な場所への移転または統合を検討する。

03

持続可能な教育環境の確保

学校施設の維持管理費や老朽化による改修費を見据えて、限られた財源を有効に活用しながら、将来にわたって必要な教育環境を確保する。

児童生徒数の将来予測

小学校別の児童数（年度別推計）

（10年後）（15年後）（20年度）

学校	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R22	R27
赤岡小学校	63	58	60	51	51	39	33	29	28	28 (44%)	25	20
香我美小学校	239	228	240	223	218	209	204	192	177	176 (73%)	164	154
佐古小学校	289	262	243	257	245	226	213	216	213	198 (68%)	208	194
野市小学校	644	662	666	662	666	681	666	649	647	642 (99%)	569	542
野市東小学校	241	228	227	232	215	210	199	199	198	193 (80%)	181	172
夜須小学校	117	114	99	91	80	78	71	64	66	63 (53%)	55	44
吉川小学校	35	35	36	28	30	25	25	24	21	22 (62%)	20	13
計	1,628	1,587	1,571	1,544	1,505	1,468	1,411	1,373	1,350	1322 (81%)	1,222	1,139

※　令和7年5月1日時点の住民基本台帳人口を使用した推計値
※　（　）内は令和8年度の児童数を100％とした場合の割合

生徒数の推移と将来推計

中学校別の生徒数（年度別推計）

学校	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17（10年後）	R22（15年後）	R27（20年度）
赤岡中学校	54	48	36	35	26	34	30	35	29	22 (40%)	18	14
香我美中学校	97	112	99	105	95	94	86	88	100	94 (96%)	70	64
野市中学校	475	483	489	479	472	473	503	490	475	457 (96%)	425	394
夜須中学校	49	52	58	58	54	47	45	46	39	34 (69%)	28	24
計	675	695	682	677	647	648	664	659	643	607 (89%)	541	496

※ 令和7年5月1日時点の住民基本台帳人口を使用した推計値
※ 推計12歳人口に令和3年度から令和7年度までの市内進学率（平均値）を乗じ、各小中学校の入学人数を算出
※ （ ）内は令和8年度の児童数を100%とした場合の割合

規模適正化に関する香南市の基本的な考え方

小・中学校整備の原則

津波浸水想定区域に位置する小学校、中学校は浸水想定区域外に統合する。

既存の学校施設をできる限り活用する。

配置、通学区等

既存学校・校区の単純な統廃合だけでなく、香南市全体の校区等の見直しを含めて検討を行います。

その際、通学区が拡大する校区については、地域の実情に応じ、児童・生徒の通学における安全確保や負担軽減のためにスクールバス等を運行します。.

香南市における適正規模の範囲

＜小学校＞

	1学級	1学年	1学校
香南市の目指す規模	20人以上 上限： 1・2年生 30人 3～6年生 35人	2学級以上	12～18学級
国の示す標準規模	35人 （5，6年生は40人）	—	12～18学級

＜中学校＞

	1学級	1学年	1学校
香南市の目指す規模	20人以上 上限： 1 年生　30人 2･3年生　35人	2学級以上	6～15学級
国の示す標準規模	40人	—	12～18学級

※ 香南市学校等の規模適正化等基本方針（令和5年10月策定）より引用

規模適正化に関する小学校の基本的な考え方

夜須小学校

夜須小学校は、全学年が１学級編成の小規模校であり、今後も児童数の減少が予測されます。また、沿岸部に位置し南海トラフ巨大地震による津波浸水が予測されています。高台への避難は可能ですが、津波浸水想定区域外への高台移転が望ましいと考えられます。このことから、適正規模・適正配置を図るため、津波浸水想定区域外に位置する学校との再編を進めます。

赤岡小学校

赤岡小学校は、 2学年と3学年、5学年と6学年で複式学級が編成されており、その他の学年も１学級編成の過小規模校となっています。今後も児童数の減少が予測されることから、複式学級編成を解消するため早急に規模適正化を図る必要があります。また、沿岸部に位置し南海トラフ巨大地震による津波浸水が予測されています。高台にある体育館への避難は可能ですが、津波浸水想定区域外への高台移転が望ましいと考えられます。このことから、適正規模・適正配置を図るため、津波浸水想定区域外に位置する学校との再編を進めます。

香我美小学校

香我美小学校は、3学年と5学年が１学級編成、その他の学年は２学級編成の小規模校であり、今後も児童数の減少が予測されます。津波浸水想定区域外に位置していることから現施設を活用して規模適正化を図るため、津波浸水想定区域に位置する学校との再編を進めます。

吉川小学校

吉川小学校は、3学年と4学年、５学年と６学年で複式学級が編成されており、その他の学年も１学級編成の過小規模校となっています。今後も児童数の減少が予測されることから、複式学級編成を解消するため早急に規模適正化を図る必要があります。また、沿岸部に位置し南海トラフ巨大地震による津波浸水が予測されています。津波避難タワーへの避難は可能ですが、津波浸水想定区域外への高台移転が望ましいと考えられます。このことから、適正規模・適正配置を図るため、津波浸水想定区域外に位置する学校との再編を進めます。

野市東小学校

野市東小学校は、全学年が２学級編成の適正規模校ですが、今後は児童数の減少が予測されます。津波浸水想定区域外に位置していることから現施設を活用して規模適正化を図るため、津波浸水想定区域に位置する学校との再編を進めます。

野市小学校

野市小学校は、１・2学年が４学級編成、その他の学年が３学級編成の大規模校であり、今後も児童数の増加が見込まれます。規模適正化を図るためには通学区域の変更等が必要になると考えられ、慎重な対応が求められます。津波浸水想定区域外に位置していることから現施設を活用して存続とします。

佐古小学校

佐古小学校は、全学年が２学級編成の適正規模校ですが、今後は児童数の減少が予測されます。規模適正化を図るためには通学区域の変更等が必要になると考えられ、慎重な対応が求められます。津波浸水想定区域外に位置していることから現施設を活用して存続とします。

※　香南市学校等の規模適正化等基本方針（令和5年10月策定）で示された考え方を踏まえ、令和8年時点の状況に合わせて内容を修正

規模適正化に関する中学校の基本的な考え方

夜須中学校

夜須中学校は、全学年が１学級編成の小規模校であり、今後も生徒数の減少が予測されます。また、沿岸部に位置し南海トラフ巨大地震による津波浸水が予測されています。高台への避難は可能ですが、津波浸水想定区域外への高台移転が望ましいと考えられます。このことから、適正規模・適正配置を図るため、津波浸水想定区域外に位置する学校との再編を進めます。

香我美中学校

香我美中学校は、１学年と3学年が1学級編成、2学年が2学級編成の小規模校であり、今後も生徒数の減少が予測されます。津波浸水想定区域外に位置していることから現施設を活用して規模適正化を図るため、津波浸水想定区域に位置する学校との再編を進めます。

赤岡中学校

赤岡中学校は、全学年が１学級編成の小規模校であり、今後も生徒数の減少が予測されます。また、沿岸部に位置し南海トラフ巨大地震による津波浸水が予測されています。高台への避難は可能ですが、津波浸水想定区域外への高台移転が望ましいと考えられます。このことから、適正規模・適正配置を図るため、津波浸水想定区域外に位置する学校との再編を進めます。

野市中学校

野市中学校は、全学年が５学級編成の適正規模校であり、今後も適正な学校規模を維持できると予測されます。津波浸水想定区域外に位置していることから現施設を活用して存続とします。

※　香南市学校等の規模適正化等基本方針（令和5年10月策定）で示された考え方を踏まえ、令和8年時点の状況に合わせて内容を修正

児童・生徒・教職員アンケート

1　調査の目的

本市は、令和5年に「香南市学校等の規模適正化等基本方針」を策定し、学校等の規模適正化等について様々な観点から検討しています。本調査は、児童生徒、教職員の再編に関する意識や考えを把握し、今後の規模適正化の取組の検討資料とすることを目的に、実施しました。

2　調査対象

子ども向けアンケート：　市内全小学校4年生～6年生全員、市内全中学校1年生～3年生全員
教員職向けアンケート：　市内全小中学校の全教職員

3　調査期間

令和7年7月15日～令和7年9月19日

4　調査方法

説明資料を対象者にオンラインで配付し、Web回答フォームによる回答を依頼しました。

5　回収状況

	対象者数	回答者数	回答率
子ども向けアンケート	1,528人	1,171件	76.6%
小学生	821人	627件	76.4%
中学生	707人	544件	76.9%
教職員向けアンケート	247件	174件	70.4%

小学生・中学生アンケート質問一覧

	回答者の基本情報（学校・学年）
問1	あなたは、学校に行くことが楽しいですか。
問2	あなたは、学校にいるときに、次の①から⑥のことについて、それぞれどのように感じていますか。 ①ともだちと過ごす時間　②授業中・勉強している時　③給食の時間④行事の時間　⑤委員会や係の時間　⑥クラブ活動や部活動の時間
問3	あなたにとって、学校生活で１番大切なことは次の①～⑧でどれだと思いますか。 ①友だちと過ごす時間　②授業中・勉強している時　③クラブ活動や部活動の時間　④行事の時間　⑤給食の時間　⑥委員会や係の時間⑦その他　⑧特にない
問4	友だちと話し合う活動を通じて、自分の考えを伝えたり、新しいことに気付いたりすることができていますか？ ①できている　②どちらかといえばできている　③どちらかといえばできていない　④できていない
問5	あなたの学年のクラス数（学級数）についてどう思いますか。 ①もっと多いほうがよい　②今のままでよい　③もっと少ないほうがよい　④わからない
問6	あなたのクラス（学級）の人数についてどう思いますか。 ①もっと多いほうがよい　②今のままでよい　③もっと少ないほうがよい　④わからない
（中学生のみ）	中学校へ入学した際、何か戸惑ったことや不安に思ったことはありましたか？ （選択肢12個のうち3つ）
問7	「問６」で選んだ答えの理由を２つ選んでください。　（選択肢12個のうち2つ）
問8-1	今の学校の人数の「いいな」と思うところを教えてください。（自由に書いてください）
問8-2	今の学校の人数の「よくないな」と思うところを教えてください。（自由に書いてください）
問9-1	人数が多い学校の「いいな」と思うところを教えてください。（自由に書いてください）
問9-2	人数が多い学校の「よくないな」と思うところを教えてください。（自由に書いてください）
問10-1	人数が少ない学校の「いいな」と思うところを教えてください。（自由に書いてください）
問10-2	人数が少ない学校の「よくないな」と思うところを教えてください。（自由に書いてください）

1　児童生徒の学校生活に対する意識

(1)学校生活で大切なこと

「学校に行くことが楽しい」または「どちらかといえば楽しい」と学校生活を肯定的にとらえている児童生徒は80.0%に上ります。学校規模の大小にかかわらず、学校生活を肯定的にとらえていますが、赤岡中学校は「どちらともいえない」が他の中学校よりもやや多くなる結果となりました。

児童生徒にとって、学校生活の中で「友だちと過ごす時間」を楽しいと感じる割合は94.8%と圧倒的に高くなっています。一方で、「授業中・勉強している時」や「委員会や係の時間」については、「楽しいと感じない人」の割合が多くなっています。特に「授業中・勉強している時」に関しては、中学校では学年が上がるほど「楽しいと感じる人」が減少しています(中学1年生60.8%から中学3年生46.1%へ減少)。

学校生活で一番大切なことは、「友だちと過ごす時間」であり、全体の58.5%が選択しています。

(2)学校規模と満足度(楽しいと感じる)の相関

学校規模と満足度の関係を見ると、小学校、中学校ともに小規模校の方が「授業中・勉強している時」、「給食の時間」、「行事の時間」、「委員会や係の時間」 、「クラブ活動や部活動の時間」について、「楽しい」が多い傾向がみられます。

2　児童生徒の学校規模に関する意識

児童生徒の大多数（約70％）は、学年のクラス数やクラス人数について「今のままでよい」と回答しており、学校規模にかかわらず、現状を肯定的にとらえています。

しかし、学校別でみると、吉川小学校や赤岡中学校では「もっと多い方がよい」が30％を超えています。野市中学校では「もっと少ない方がよい」が他の学校に比べて多い傾向が見られます。

クラスの人数についての考えの理由を見ると、規模の大きい学校は「学級の仲間の人数が多いので楽しい」「いろいろな考えをもった学級の仲間がいるので、たくさんの考えを知ることができる」が多く、規模の小さい学校は「ゆとりや安心感などがあり、家庭的な感じで勉強ができる」「学校行事で一人一人が中心となって活躍できる場がある」「授業中、困ったときに先生がすぐに気づいてくれて、個別の指導を受けやすい」が多い傾向です。

3　自由記述からの考察

児童生徒は、人数の多い学校に対して、多様な友だちや活気ある行事という社会的なメリットを期待する一方で、いじめや人間関係のトラブル、学校生活での騒音といった人間関係や環境の悪化リスクも認識しています。

逆に、人数の少ない学校については、平穏な学習環境や個別的な支援が受けやすいとメリットを期待する一方で、友人関係の固定化・限定化や交流機会の不足、行事・活動の制約など社会性や成長の機会が限定されることへの懸念を抱いている記述が多い傾向です。

これは、子どもたちが学校生活で大切なこととして、「友だちと過ごす時間」をあげていることから、良い面、良くない面ともに関心が高いことを示しています。

教職員アンケート質問一覧

	回答者の基本情報（年代・勤務校・役職）
問1	現在、受け持っているクラス（学級）の人数をお答えください。 学級担任の方はクラスの人数を、そうでない方は、お勤めの学校でより多く接する機会のあるクラスをイメージしてお答えください。（選択肢7個から1つを選択）
問2	「問１」でお答えいただいた人数について、どう感じていますか？ ①もっと多い方が良い　②ちょうど良い　③もっと少ない方が良い
問3	現在、勤務している学校の規模についてどう感じていますか。 ①小さいと感じる　②適正だと感じる　③大きいと感じる
問4	本市では令和５年10月に「香南市学校等の規模適正化等基本方針」を策定しています。先のページでその抜粋をお示ししていますが、あなたは、この基本方針についてどのように思いますか。 ①理解できるし賛成　②理解できない部分もあるが賛成　③理解できる部分もあるが反対 ④理解できないし反対　⑤わからない
問5	問４の回答を選んだ理由として、あなたの考えに近いものを次のなかから３つ選んでください。 （選択肢19個から3つを選択）
問6	今後「香南市の目指す規模」として、あなたが望ましいと思う学級数は次のどれですか。小学校・中学校、両方にお答えください。 【小学校】（あてはまる番号１つを選択） ①複式学級の解消を目指す　②１学年２学級編成を目指す（香南市の目指す規模） ③現状のままでよい　④その他（内容を記載してください） 【中学校】（あてはまる番号１つを選択） ①１学年２学級編成を目指す（香南市の目指す規模）②現状のままでよい　③その他（内容を記載してください）
問7	「問６」の【小学校】の回答について、そう思う理由をお書きください。（自由記述）
問7-1	「問６」の【中学校】の回答について、そう思う理由をお書きください。（自由記述）
問8	学校の適切な規模や配置を検討するにあたり、学校にはどのような配慮や機能が必要だと考えますか。 （選択肢12個から優先順位ごとに3位まで選択）
問9	仮に学校を再編するとすれば、何を重視するのがよいと思いますか。 （選択肢6個から優先順位ごとに3位まで選択）
問10	現在の学校区についてどのように思いますか。
問11	「問10.校区についてどのように思いますか。」で選択した答えについて、そう思う理由をお書きください。 （自由記述）
問12	問10で「１．校区を変更するのがよい」を選んだ場合、具体的な変更案があればお書きください。（自由記述）
問13	仮に学校敷地内や校舎内に学校以外の公共施設等が整備されるとした場合、望ましいと思われる施設を選択してください。（選択肢9個からあてはまる番号すべてを選択）
問14	今、勤務されている学校の良さを教えてください。（自由記述）

1　教職員の規模適正化への意識

(1)基本方針への賛成意見とその理由

教職員の77.0%が「香南市学校等の規模適正化等基本方針」に賛成しており(「理解できるし賛成」47.1%、「理解できない部分もあるが賛成」29.9%)、規模適正化に対する高い受容性が確認できます。

賛成理由の上位は、規模の拡大による教育効果に集中しており、教職員が現行の小規模な環境において、集団活動や多様な学びの機会が不足していると感じている可能性を示唆しています。

(2)望ましい学級数

望ましい小学校の学級数については、51.7%が「1学年2学級編成を目指す(香南市の目指す規模)」を支持しています。特に、受け持ちクラスが少人数の教員(10人以下、11～20人)は、「複式学級の解消を目指す」ことを強く望む傾向があります。

自由記述の意見からは、単学級編成や複式学級のデメリット(人間関係の固定化、コミュニケーション力や自己有用感の成長が見込めない、教員の負担が大きい、きめ細やかな指導が難しいなど)を解消するため、2学級編成が望ましいとされています。

(3)学校再編の検討に必要な要素

学校の規模適正化にあたって、教職員が優先する事項は、以下の2点に集約されます。

1. 学習環境:検討にあたり必要なこと(問8)では、「児童・生徒が快適に学習できる環境であること」が、優先度1位(44.3%)であり、優先度1～3位の合計でも85.6%と突出して高くなっています。

2. 安全性:実際に学校再編を行う場合に重視すべきことは、「津波対策(浸水エリア外への整備)」(40.2%)が優先度1位の割合では最も高くなっています。

保護者アンケート

1　調査の目的

香南市立保育所・幼稚園・こども園に通う園児の保護者や香南市立小中学校に通う児童生徒の保護者の規模適正化に関する考えを把握し、今後の学校等の規模適正化の取組の検討資料とすることを目的に、実施しました。

2　調査対象

香南市立保育所・幼稚園・こども園に通う園児の保護者
香南市立小中学校に通う児童生徒の保護者
（すぐーる登録者3,615名）

3　調査期間

令和8年7月27日～令和8年8月14日

4　調査方法

すぐーるでWeb回答フォームによる回答を依頼しました。

5　回収状況

		地域							
		野市町	香我美町	夜須町	赤岡町	吉川町	その他	無回答	合計
年代	29歳以下	56	6	4	1	0	0	0	67
	30～39歳	302	80	20	15	11	0	2	430
	40～49歳	350	58	49	25	15	1	0	498
	50歳以上	72	12	12	5	12	1	0	114
	無回答	0	0	0	0	0	0	1	1
	合計	780	156	85	46	38	2	3	1110

保護者アンケート質問一覧

問	質問内容
問１	あなたの年代を選んでください。
問２	あなたのお住まいの地域を選んでください。
問３	お子さんの在籍について、当てはまるものを全て選んでください。
問４	学校等の整備に関する基本的な考え方の『津波浸水想定区域に位置する小学校、中学校は浸水想定区域外に統合する』についてどう思いますか。
問５	上記を選んだ理由を教えてください。
問６	学校等の整備に関する基本的な考え方の『既存の学校施設をできる限り活用する』についてどう思いますか。
問７	上記を選んだ理由を教えてください。
問８	学校規模の基準の『学校規模は、小中学校とも１クラス20人以上で、1学年2クラス以上となることを目指す』についてどう思いますか。
問９	上記を選んだ理由を教えてください。
問１０	学校の統廃合を検討するうえで、最も重視すべきだと考える項目を次の中から一つ選んでください。
問１１	学校の統廃合を検討するうえで、2番目に重視すべきだと考える項目を次の中から一つ選んでください。
問１２	学校の統廃合を検討するうえで、3番目に重視すべきだと考える項目を次の中から一つ選んでください。
問１３	基本方針に基づいて小中学校を統廃合・再編する時期はいつ頃が良いと考えますか。
問１４	今後の学校等の規模適正化に関する取組について、ご意見・ご感想をご記入ください。

学校等の整備に関する基本的な考え方の『津波浸水想定区域に位置する小学校、中学校は浸水想定区域外に統合する』について

浸水区域外への統合	町別				
	賛成	反対	わからない	無回答	合計
野市町	511	36	232	1	780
香我美町	117	3	35	1	156
夜須町	41	18	25	1	85
赤岡町	18	12	16	0	46
吉川町	19	9	9	1	38
その他	1	0	1	0	2
無回答	3	0	0	0	3
合計	710	78	318	4	1110

【賛成意見】こどもたちの命を災害から守るため。将来を考えた教育環境が確保されるべき。避難訓練をしても想定外が起きる可能性がある。スクールバス等通学の課題が解決されるのであれば賛成。生徒・職員ともに危険な場所にいる必要はない。学校施設の維持に費用が掛かるから。

【反対意見】送迎の負担が増える。大人数の学校になじめない子が出てくる。将来的に統合するには賛成だが今ではない。統合ではなく、移転を希望する。どこにいても安全とはいえない。地域から学校がなくなってほしくない。統合にお金をかけるのではなく、住民の暮らしに予算を使ってほしい。

【わからない】こどもの安全を最優先すべきだとは思うが保護者の事情もあるから。それぞれにメリット・デメリットがある。急な統合は反対であるが、希望者は浸水想定区域外の学校を選択可能にしてから円滑に統合を進めた方がよい。

学校等の整備に関する基本的な考え方の『既存の学校施設をできる限り活用する』についてどう思いますか。

既存の学校施設の活用	町別				
	賛成	反対	わからない	無回答	合計
野市町	513	28	231	8	780
香我美町	106	5	43	2	156
夜須町	44	10	30	1	85
赤岡町	30	1	15	0	46
吉川町	19	6	12	1	38
その他	2	0	0	0	2
無回答	1	1	1	0	3
合計	715	78	332	12	1110

【賛成意見】
経費が削減される。迅速に対応できる。必要な部分のみ改修や増築すればよい。
老朽化や耐震性が問題なければ賛成。学校の新設は多額の費用が掛かるから。
【反対意見】
老朽化しているなら新設すべき。
【わからない】『出来る限り』は、結構ぎりぎりの老朽化も含まれてるのかな。具体的な統合案が不明なため。

学校規模の基準の『学校規模は、小中学校とも1クラス20人以上で、1学年2クラス以上となることを目指す』についてどう思いますか。

クラスの規模	町別				
	賛成	反対	わからない	無回答	合計
野市町	445	47	283	5	780
香我美町	91	14	48	3	156
夜須町	33	11	39	2	85
赤岡町	12	9	24	1	46
吉川町	12	9	16	1	38
その他	1	1	0	0	2
無回答	3	0	0	0	3
合計	597	91	410	12	1110

【賛成意見】
社会性や多様な価値観を育むうえでプラスとなる。人間関係で問題が起きてもクラス替えができて対応しやすい。多くのともだちと関わりを持ってほしい。学校による人数差をなくしてほしい。
【反対意見】
20人にこだわらなくていい。小規模校も必要。無理に目指さなくていい。地域の実情にあわせたらいい。
【わからない】
どちらの良さもあるのでわからない。この基準になった理由がわからない。

学校の統廃合を検討するうえで、最も重視すべきだと考える項目を次の中から一つ選んでください。

件数順位	回答	町別					合計
		野市町	香我美町	夜須町	赤岡町	吉川町	
		772	156	84	46	37	1095
1	津波等の災害リスクを考慮した場所	481	97	40	22	18	658
2	通学手段の確保（スクールバス等）	147	28	30	7	12	224
3	学校規模の基準以上の児童・生徒数の確保	77	18	1	6	3	105
4	地域の活力維持	24	4	10	7	3	48
5	市の財政負担軽減	23	5	1			29
6	教職員の負担	2					2
7	その他	18	4	2	4	1	29

【その他の内容】
こどもの気持ち。各地域の良い文化を残すこと。学校の特徴づくり。
校区を無くして進学先の自由選択。受入校のキャパや設備の状態。
学校の生活環境。統合に反対。保護者の同意。

学校の統廃合を検討するうえで、2番目に重視すべきだと考える項目を次の中から一つ選んでください。

件数順位	回答	町別					合計
		野市町	香我美町	夜須町	赤岡町	吉川町	
		771	154	84	42	36	1086
1	通学手段の確保（スクールバス等）	317	67	40	22	15	463
2	津波等の災害リスクを考慮した場所	179	39	23	12	8	261
3	学校規模の基準以上の児童・生徒数の確保	160	31	5	2	5	204
4	地域の活力維持	58	4	11	5	4	82
5	市の財政負担軽減	49	12	1		3	65
6	その他	8	1	3	1	1	14

【その他の内容】
統廃合後の施設の利用方法。民間活力の活用。保護者や住民への説明。
通学距離が長くなることでこどもの負担がどれくらいになるか。

学校の統廃合を検討するうえで、3番目に重視すべきだと考える項目を次の中から一つ選んでください。

件数順位	回答	町別					
		野市町	香我美町	夜須町	赤岡町	吉川町	合計
		760	152	81	42	36	1071
1	津波等の災害リスクを考慮した場所	208	40	17	9	6	280
2	通学手段の確保（スクールバス等）	161	37	32	13	11	254
3	学校規模の基準以上の児童・生徒数の確保	168	22	10	9	9	218
4	地域の活力維持	138	33	7	6	5	189
5	市の財政負担軽減	67	15	9	5	4	100
6	教職員の負担	18	5	6	0	1	30

【その他の内容】
地域住民のこどもを優先してほしい。こどもの気持ち。人数が増えることで起きる生徒間トラブルへのしっかりとした対応。
こどもたちが安全・安心に生活できる環境づくり。こどもへ使う予算の増額。市内小中学校の進路選択の自由。地域の声。

基本方針に基づいて小中学校を統廃合・再編する時期はいつ頃が良いと考えますか。

件数 順位	回答	町別					合計
		野市町	香我美町	夜須町	赤岡町	吉川町	
		780	156	85	46	38	1105
1	5年以内	374	78	37	12	19	520
2	10年以内	295	52	19	11	6	383
3	10年以降	45	12	10	6	5	78
4	無回答	11	5	3	6	4	29
5	わからない	22	6	2	1	1	32
6	その他	33	4	14	10	3	64

【その他の内容】
すぐに。できるだけ早期に。こども、保護者、地域などの声をしっかり聞いて、課題や問題点が解決されてから。早くしないと地震が来てしまう。期限を決めないほうがよい。複数校で複式学級がでてくるまで。統廃合・再編に反対。生徒数の推移を予測して、早めに対応したほうがよい。

今後の学校等の規模適正化に関する取組について、ご意見・ご感想をご記入ください。

分類	件数（概算）	主な内容
津波・地震など災害リスクを踏まえ、早期の統廃合・移転を望む	約70人	南海トラフへの備えとして、スピードを求める意見が最多
子どもの命・安全を最優先に考えてほしい	約45人	通学路の安全確保、災害時に子どもを守る体制の整備
地域の意見を尊重し、丁寧な説明と合意形成を行ってほしい	約40人	説明不足への不満、透明性・情報発信の強化を求める声
少子化・人口減少を踏まえ、統廃合はやむを得ないとする意見	約25人	複式学級の問題、規模適正化による教育の質向上
地域の衰退・活力低下への懸念	約25人	学校が地域コミュニティの核であり、統廃合後の活性化策が必要
通学手段・通学距離の負担軽減	約22人	スクールバスの便数確保、遠距離通学の安全対策、通学路整備
教員の負担軽減・人員確保と教育の質向上	約20人	教員不足への懸念、担任の業務負担軽減、子どもと向き合う時間の確保
情報公開の不足・アンケートの進め方への不信感	約20人	結論ありきではないかという指摘、結果の公開の遅れ
財政の適正化	約15人	限られた財源の有効活用、無駄な支出の抑制
跡地・廃校の活用方法	約15人	旧夜須保育園跡地の利用、廃校活用への反対
友人関係や同じ学校に通う継続性への配慮	約12人	同じ小学校の児童が住所による校区で別の中学校に進むことへの不安
特色ある学校づくり・学校選択の幅を広げること	約12人	個性や特性に合わせた学校選択、中高一貫教育などへの要望
廃校施設の市民利用	約10人	憩いの場や遊び場としての活用を求める声
学校施設の環境改善	約10人	体育館の空調、洋式トイレ、老朽化対策、駐車場の整備など
子どもの心理的負担・いじめ対策	約8人	統合後の心のケア、問題のある児童への別室対応などの配慮

意見交換

・本日、ご説明した内容で気なる点などをご質問ください。

・お子様や地域の子どもたちのためにどのような教育環境を整えることが望ましいのか沢山のご意見をいただければと思いますので御協力をよろしくお願い申し上げます。

・ご意見につきましては、今後の取組に向けて参考とさせていただくほか、後日、ご意見の内容と回答を市ホームページで公表させていただきますので、御了承ください。

意見交換会では十分にご質問いただけなかった方もいらっしゃるかと思います。
後日でも、左記二次元コードより質問フォームからご質問いただけます。
ご意見・ご質問をぜひお寄せください。